

令和4年度 白川郷学園 英語科研究構想

【研究主題】 一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

英語科が育てたい「ひとりだち」した人物像

英語に興味・関心をもち、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、自分の思いや考えを表現したり、相手に配慮しながら伝え合ったりすることができる人。

研究内容(1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化

前期課程		後期課程
1～4年生	5～6年生	7～9年生
活動の見通しをもち、相手の答えを予想して聞いたり話したりする力。	コミュニケーションの目的や場面によって、何とか相手の思いを理解しようしたり、自分の思いを何とか伝えようとしたりする力。	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、何を聞き取るべきなのか情報を整理し、相手に応じた表現方法を考えたり、選択したりして自分の考えや思いを伝えようとする力。

研究内容(2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

【日常的な実態把握】	【客観的データの活用】
<ul style="list-style-type: none"> ・発言やつぶやき ・ノートの書き取り ・ニューアプローチ ・言語活動に取り組む姿 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト・実力テスト ・パフォーマンステスト ・英語技能検定

実態に適した児童生徒への手立ての明確化

研究内容(3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫	○試行錯誤を生み出す展開の工夫	○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・教師と子どもの双方向によるやり取りを通して英語の関心を高める導入 ・自分のことや白川村のことなど児童生徒が身近に感じられるようなコミュニケーションの目的や場面・状況等の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まずはやってみる」を大切にしたい即興的なやり取りの場の設定 ・課題解決に向けて、相手に配慮しながらより多様な表現ができるような中間交流の場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの定着につながる書く活動の設定 ・児童・生徒の自己調整能力と粘り強さを大切にしたり振り返りの場の設定